

立教大学 社会学部 阿部治ゼミナール

ESD (Education for Sustainable Development) 持続可能な開発のための教育 ＝「持続可能な社会の担い手を育む教育・学習」

持続可能な社会とは、環境、経済、社会、文化のバランスが取れている社会のことで、その実現は人類存続にとって緊急の課題である。当ゼミナールでは、立教大学がある池袋地区を対象に2004年からESDを通じた持続可能な社会づくりにアクション・リサーチにより取り組んでいる。

蝶の道プロジェクト



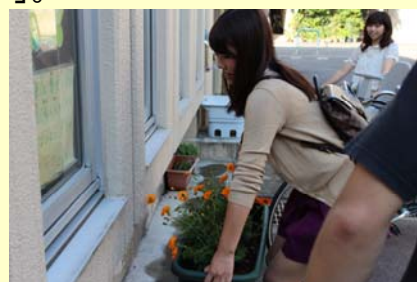
花を置いて
拠点づくり。

2012年度から当ゼミが、立教大学IBIP(アイビッピ:池袋生物多様性イノベーションプロジェクトチーム)として始めた「蝶の道プロジェクト」。立教大学がある池袋に「蝶の道」をつくる活動。

蝶の道とは？

蝶の食草や蜜源となる花を置いた拠点と拠点の間を蝶が通る「蝶の道」と呼んでいる。

今後、拠点を増やし、蝶が飛び交う池袋を目指す。



生物多様性

蝶は自然界の生態系のピラミッドの下層に位置する生物。下層が安定することに伴い、その上に位置する生物も安定し、生物多様性が実現。

人と自然の共生

蝶と触れ合う機会が増えることで、生物(多様性)に対する興味関心、環境意識を高め、人と自然が共生する未来を創造する人材を育成する。

コミュニティの形成

蜜源となる花や食草を植えた拠点が、蝶だけでなく人も集まる場所になる。そこで生まれた新たな出会いが、池袋のコミュニティの形成に繋がる。

アイポイント

NPO法人ゼファーの行う、地域通貨を活用して「安全、安心の街池袋」を実現するための社会貢献活動。当ゼミではゼファーの考えに賛同し、池袋西口での緑化と美化活動などを通じた地域づくりに参加している。



ゼファーのマスコットキャラクター「えんちゃんふくろう」の剪定。

池袋の現状

近年池袋東口は再開発などにより大きな変貌を遂げようとしている。しかし立教大学のある西口では、空き地が目立ち、風俗店の過密な出店など地域環境が悪化している。このままでは来街者が減少し商業機能の衰退に拍車をかけてしまう。このようなことを防ぐために、この活動は必要なのである。

立教小学校ビオトープ造成計画

2010年度から始められた、系列校である立教小学校にビオトープを作る計画。今年度は池の造形を実施し、まだ多くの生物はいないが一応の完成となった。

ビオトープとは？

池やその周りの環境などを造成することで、自然の生態系を人工的に作り出すもの。

環境教育

生き物の繋がりを
見せることで、
自然生態系を守り
育てていく目を養う。

生物多様性

生き物呼び寄せ、
池袋の生物多様性
を豊かにする。



重機である程度
穴を掘り、
そのあとは全て
ゼミ生の手作業で、
約2m×1mの
ビオトープが完成。



環境就職セミナー

2005年度から年に2回、企業の方をお招きし、環境や持続可能性への取り組みの一般学生への紹介の場とゼミ生との対話の場を設けている。

環境教育

大学生が社会に出てから
「持続可能な社会」を形成するために
どう貢献できるか考える場を提供。

セミナーを通してわかったこと

- ・企業の長期的な利益のためには、その基盤とも言える環境が健全でなければいけない。そういう意味で、経済は環境の一部であると言える。
- ・事業を通して無理なく環境や持続可能性への貢献を行っている企業が多い。

夏合宿

2012年度は、安藤百福記念 自然体験活動指導者育成センターで行った。

五感を使って自然を感じる
プログラム。
視覚以外で自然を体験中。



植物をグルーピングするプログラム。
分け方に各班の個性がでる。

内容

環境教育プログラムの作成と実践。
参加者に何を学んでもらいたいか、
そのためにどのようなプログラムを
構成すべきなのかを考えた貴重な
経験。